

海外留学生参加型の連携総合ゼミ事例の運営について

桑原桂¹⁾、松井由美子¹⁾、村田憲章¹⁾、山口智¹⁾、小川真貴²⁾、石上和男³⁾、久保雅義⁴⁾、真柄彰¹⁾

- 1) 新潟医療福祉大学 新潟連携教育センター運営委員会
- 2) 新潟医療福祉大学 看護学科
- 3) 新潟医療福祉大学 医療情報管理学科
- 4) 新潟医療福祉大学 理学療法学科

【背景・目的】新潟医療福祉大学（以下本学と記す）は、2001年度の開学以来、その教育理念に多職種間連携教育（Interprofessional Education: IPE）を掲げている。2019年度現在、6学部13学科とさらに学科が増え、大学構内でも様々な多職種間連携が可能となった。2009年度から2011年度には本学が主幹校となり戦略的学連携支援事業が行われた。その成果として専門職間連携教育用モジュールが作成された。この仮想事例モジュール教材は、現在も事例を少しずつ増やしながらか、Web上で無料公開を続けている。また最近では、大学間学術交流の一環として、フィリピン、台湾などの大学から短期留学生が本学の連携総合ゼミに毎年参加している。2019年度からは、海外からの短期留学生が増加したことを受け、今まで海外留学生参加型ゼミは、2つの事例のみと限っていたが、複数の事例に広げることになった。それに伴って、今後増えていく海外留学生参加型のゼミ運営を考えていく必要がある。そこで、本学の連携総合ゼミにおいて、海外留学生参加型ゼミを3年間担当した経験をまとめ、今後のゼミの運営について考察を行う。

【方法】過去3回の連携総合ゼミのために作成した資料と学生が成果物となるプレゼンテーションを作成する過程を写真等で記録したものを整理し、ファシリテーター、通訳者としてその場にいた自分自身の行動を振り返る。

本研究に関連する利益相反はない。

【結果】連携総合ゼミは、本学および他の参加大学の教員が作成した複数の事例（2019年度は18事例）に対して、履修希望のあった学生より参加希望順位を問うアンケートを行い、その結果から学生の希望を鑑みた事例に配分していく。例年、他大学の学生も含めると参加学生は120名から150名程度となる。1つのゼミに少なれば5名程度、海外留学生参加型のゼミになると8名から15名程度配分される。夏休みの初めに日本人学生と事例担当教員へのオリエンテーションが開かれ、9月の5日間のゼミに向けて、チーム連携について、googleスライド使用法、最終日に行うプレゼンテーションについて、等の説明を行い、その後各ゼミにて自己紹介やアイスブレイキングをして

5日間のゼミ活動に向けて準備を行う。

桑原のゼミは、1年目の2016年度は、日本人学生3名、フィリピン人留学生6名、計9名であった。2年目の2017年度は、日本人学生5名、フィリピン人留学生6名、計11名。3年目の2018年度は、日本人学生5名、台湾人留学生4名、フィリピン人留学生6名、計15名であった。海外留学生参加型ゼミはどうしても人数が多くなる。また、本学の理学療法学科と学術交流協定を結ぶ大学からは理学療法学科からの留学生が大半となり、メンバーに偏りが出る。問題点としては、2016年度と2018年度は海外留学生が日本人の倍の人数であったため、ディスカッションに慣れている海外留学生が主導となり、日本人学生を萎縮させてしまう場面が多くなることが挙げられる。また日本人学生の通訳として教員が介在していたが、海外留学生は日本人学生を飛び越えて、教員に直接質問をするなど、効率優先で作業を進める傾向があった。1年目は、事例を作成したばかりであったこと、海外留学生の人数が多すぎたことで、日本人学生が積極性を失っていることに気が付かず、ファシリテーターとしての役割を忘れ、意見や情報を一方的に提供してしまうという反省すべき行動をとってしまった。しかし教員が介在できない時間もあったため、次第にゼミ内で学生同士気軽に意見を言い合えるように、google翻訳を使う、国際生活機能分類を使って議論を進めるなど学生同士で工夫する様子が見られた。2年目からはフィリピンに留学経験のある日本人学生の参加があり、学生同士英語で自由に意見交換をするようになった。3年目は海外留学生の大半が理学療法学科の学生で、総数が15名と多く、意見交換が困難となる場面が多くみられた。

【考察】海外留学生参加型の連携総合ゼミは、英語で意見をまとめなければならず、日本人学生にとって荷が重い、海外から刺激を受ける良い機会である。学科の増設に伴い今後さらに海外の大学が学術交流の一環として本学の連携総合ゼミに参加をする機会が増えるであろう。海外留学生参加型ゼミ運営上重要なことは、留学生と日本人学生との人数のバランス、専門分野のバランスを考慮すること、また、ファシリテーターとしての教員の立ち位置を教員も参加学生も十分に理解しておくことである。

【結論】今後増えるであろう、海外留学生参加型の連携総合ゼミの円滑な運営のために、①海外留学生と日本人学生の人数、専門分野のバランスを考慮すること、②ファシリテーターとしての教員の立ち位置を参加教員、参加学生全員で理解することが必要となる。

【文献】

- 1) 真柄彰: 新潟医療福祉大学の保健医療福祉連携教育, 保健医療福祉連携, 6: 31-32, 2013.
- 2) 大嶋伸雄: 首都大学東京健康福祉学部における専門職間連携教育, 保健医療福祉連携, 6: 41-45, 2013.